

経営概要書

法人名：

株式会社 秋田県食肉流通公社

(株12)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 土田 正広	資本金	1,319,700千円	所管部課名
設立年月日	昭和53年6月6日	県出資額及び比率	445,710千円 (33.8%)	農林水産部畜産振興課
設立目的	秋田県における肉畜及び食肉流通の合理化を図り、もって畜産農家経済の発展と県民生活の向上に寄与することを目的に設立			
事業概要	①肉畜の集荷、と殺、解体 ②枝肉及び副産物の買い取り並びに受託処理加工 ③食肉及び副産物の加工並びに貯蔵販売 ④前各号に付帯する一切の事業			
関連法令、県計画	と畜場法、食品衛生法			

2 令和3年度事業実績

大口の生産農場からの豚集荷が前年を上回り、と畜頭数は目標を達成した。カット頭数については牛の産地カットは目標を上回ったが、豚換算では目標未達となった。収支については、原油価格の想定外の高騰により光熱費が前年比23,344千円経費増となったほか、販売部門ではコロナ禍での販売不振や運賃値上げにより目標の収益を確保するのが難しい状況であった。役職員一丸となり経費の節減に努めた結果、令和3年度の事業実績は当期純利益4,707千円と黒字となった。

<事業目標・実績>

項目	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
と畜頭数(豚換算：頭)	目標	182,750	187,140	188,000
	実績	188,579	188,685	—
カット頭数(豚換算：頭)	目標	101,600	109,600	110,500
	実績	104,576	107,312	—
顧客満足度指数	目標	90	90	90
	実績	90	91	—

3 組織

①役員数(R4.7.1現在) (単位：人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	R3	R4	R3	R4	
常勤	3	3	1	1	支給対象者 (R3年度) 4人
内、県退職者	1	1	1	1	
内、県職員					
非常勤	7	7	2	2	平均年齢 60歳
内、県退職者					
内、県職員					平均報酬年額 (R3年度) 5,632千円
計	10	10	3	3	
内、県関係者	1	1	1	1	

②職員数(R4.4.1現在) (単位：人)

区分	R3	R4	正職員
正職員	56	57	
内、県退職者			平均勤続年数 11.9年
出向職員	1		平均年収 (R3年度) 3,676千円
内、県職員			
臨時・嘱託	10	8	
内、県退職者			
計	67	65	
内、県関係者			

③取締役会回数

令和2年度	令和3年度
5回	6回

4 財務

①損益計算書 (単位：千円)

区分	令和2年度	令和3年度
売上高	9,789,560	9,882,290
売上原価	9,283,402	9,405,796
売上総利益	506,158	476,494
販売費及び一般管理費	488,308	476,474
人件費(売上原価含む)	332,543	325,567
営業利益(損失)	17,850	20
営業外収益	18,993	10,522
営業外費用	1,701	2,228
経常利益(損失)	35,142	8,314
特別利益	76,500	52,500
特別損失	76,796	52,525
法人税、住民税・事業税	15,710	3,582
当期純利益(損失)	19,136	4,707

<主な経営指標>

項目	令和2年度	令和3年度	増減※
経常収支比率(経常収益÷経常費用)	100.4%	100.1%	△0.3
流動比率(流動資産÷流動負債)	325.0%	304.2%	△20.8
自己資本比率(純資産計÷負債・純資産計)	71.4%	72.4%	+1.0
有利子負債比率(有利子負債÷純資産計)	14.0%	12.8%	△1.2

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

②貸借対照表 (単位：千円)

区分	令和2年度	令和3年度
流動資産	953,265	949,197
固定資産	960,144	945,155
資産計	1,913,409	1,894,352
流動負債	293,303	312,066
短期借入金	54,174	65,344
固定負債	253,444	210,917
長期借入金	136,665	110,149
負債計	546,747	522,983
資本金	1,319,700	1,319,700
利益剰余金等	46,962	51,669
純資産計	1,366,662	1,371,369
負債・純資産計	1,913,409	1,894,352

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<退職給与引当状況(単位：千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
125,157	67,291	53.8%

5 県の財政的関与の状況

区分	令和2年度	令和3年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金	77,250	52,500	食肉・食鳥処理施設緊急環境整備事業補助金
委託費	10,368	6,506	秋田牛の台湾における認知度向上及び販路開拓に関する業務委託他
指定管理料			

(単位：千円)

◎法人の行動計画(平成30年度～令和3年度)

県関与のあり方[縮小・廃止] 見直しの方向性 県保有株式の処分を目指し、経営改善に取り組む。

課題 ①産地食肉センターとして、生産者との連携を密にし一層の生産基盤の安定と拡大を図る。  
②安定した経営に向けた人材育成や施設整備を着実に実行していくため、今後、内部の環境・体制を検討する。

取組 引き続き経営の安定化を図るため、単年度黒字を実現させる。  
【平成30～令和3年度】当期純利益 各年度 6,000千円

実績 【当期純利益】平成30年度：9,926千円 令和元年度：14,990千円 令和2年度：19,136千円 令和3年度：4,707千円

I 自己評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(A)	4 財務状況	A
食の安全・安心を確保するとともに、「秋田牛」等を始めとする県産ブランド食肉の販売対策に重点的に取り組む、本県畜産振興を牽引する主導的役割を果たしてきた。		会社法を遵守した組織体制（取締役会・監査役会・会計監査人）となっている。内部監査を毎年実施する計画となっている。		大口生産農場から目標以上の豚出荷があり、豚換算頭数ではと畜頭数は事業目標を達成できた。カット頭数については牛の産地カットは目標を上回ったが、豚換算では目標未達となった。		原油価格高騰により光熱費の経費増や販売部門のコロナ禍での販売に苦慮したが、経費節減に努めた結果、当期純利益4,707千円と7期連続の黒字を確保できた。	

II 所管課評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(A)	4 財務状況	A
全県の畜産農家が生産した牛・豚のと畜・解体を行い、県民を始めとする消費者に衛生的で安全・安心な食肉を提供するという広域性・公共性の高い役割を担うとともに、秋田牛ブランドの推進など、県の畜産振興施策を具現化する重要なパートナーである。		事業の執行に必要な常勤の役員・職員が確保されているほか、取締役会を適切に開催するなど、安定した法人運営に必要な組織体制が十分に整備されている。		県内の家畜飼養頭数や食肉の需給・相場の動向を把握した上で、処理頭数や販売額等について、適切に目標を設定している。3年度については、と畜頭数は目標を上回ったが、カット頭数はわずかに目標に満たなかった。		29年度に累積赤字を解消し、3年度も当期純利益で4,707千円と7期連続で黒字を確保している。	

III 外部専門家のコメント

売上高は増収であったが、原油価格の高騰による光熱費の増加などにより営業利益が20千円と減益、当期純利益が4,707千円となった。設備投資を積極的に行い、豚と畜頭数、豚カット取扱頭数は増えてきており経営努力が7期連続での黒字確保につながっていると思われる。原油価格の高騰など厳しい外部環境が続いているため、引き続き安定経営に向け計画的な取り組みを続けていきたい。
--

IV 委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(A)	4 財務状況	A
三セクの行動計画上は「設立支援を目的として出資等をした法人で、その目的が達成された法人」に位置づけられているが、と畜場として衛生的で安全・安心な食肉を生産する役割や、県産ブランドの推進など県の畜産振興施策の推進面での役割も大きい。		常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。		カット頭数は目標に届かなかったものの、目標に対して98%の達成度となっており、ほぼ目標は達成している。と畜頭数及び顧客満足度指数はいずれも目標値を上回った。		行動計画の取組に掲げている当期純利益については目標を達成できなかったものの、7期連続で黒字を確保しており、順調に利益剰余金を積み増している。	

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(A)	4 財務状況	A
評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた対応（概要）							
引き続き、公共的な役割を果たすため、と畜場として生産者の要望に応えた運営に取り組むとともに、安定した集荷頭数を確保するため、県内外の業者へ、本公社でのと畜を重点的に働きかけた。							